

宗漢院御製

高きしよはなまよは  
奇れつきくみおまら  
禁さるまよおまら  
乃天降神代まよ  
は志うてみるま  
あまうり都とま  
いつものみやま  
ありあし利きま  
まらまなぶれま  
のち百草ま  
禁まらく地まらくに風



いしものみやうやく  
ありありし利きか  
志なきはなれりれ  
のちの百草れと  
禁志はく地やくに風  
よつまほしきこひれ  
登ちちりきり見しに  
わらわえれあうれを汲  
てはあみのみまか  
人よあはらひくは  
なきことくはちと  
あをまきてせえ  
しと出なわく文津  
の國乃難波乃浦の  
なよとあくぬ海の水  
まかよこの書とあ  
な



あつとを束まてせと先  
しと出たふから先津  
の國乃難波乃浦の  
なよとふくぬ海の水  
まかまこの書とを思  
ひふく書しふいかに  
まてよれ人まこいそつ  
かしれまかしてせむ  
とたえへとと書るま  
えあははかまつる祿  
津

時よりぬたよれむえ  
まら地えしてむらし  
れ春のよとをいかに  
なよれあや免えと



時よりぬたよれむえ  
まら地えしてむらし  
れ春のよむしきに  
なよれあや免えと  
うまのこらうぬ月  
かまえてえ志いれま  
ぬき袖の補よ志不  
くまますさあま古  
すまあえれまかまて  
らあ人え活よしし  
あふつあぬ祢のし記  
えれまし世あねとし  
君よあつらまかま志  
あり志らまらう禮し



あふつぬ祿の丁に  
もれぬ世ふれとし  
君よあつ人をまき  
あり志のまら禮の  
日まん草のまん不  
よて位まの之の松乃  
ちとせ乃とさく  
柄えつかにさつ  
やま禁乃まき  
のむよまなくけ  
たはのなくさつてぬ  
つ社乃つたえ  
色ぬまかして  
まーまぢれ志の禁  
乃つつと木乃  
利乃多つぬれ



乃とつやと木心乃  
元利河多つぬれ  
いまたあらしにた  
吾つゝ震々れくまお  
とろつてのまおほ  
元よの水らまよあ  
さきいしんふおれ  
はぐなうきて乃各と  
おのれうきた元  
しやなぬらむと  
まらん

おむ勢心まつ八年

月夜庵

志る本



お心懸心より万々

月夜庵

志す本意

一源俊頼朝臣  
一崇徳院御製 長歌 三幅

右女書勢以下三幅月夜庵之考

考と女書 袖摺は 大場一書之考

筆跡は此西宮之下を以て証す

大正十一年八月十日 孫大場景為

